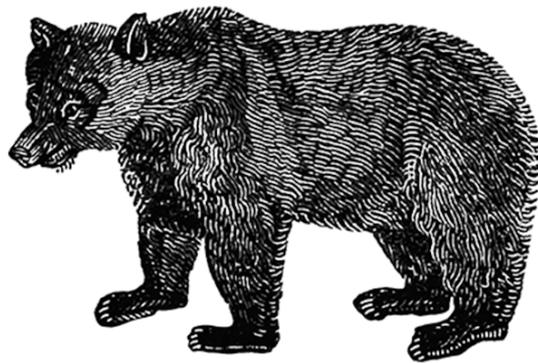


さとやまけもの通信

【創刊特別号】クマについて知ろう！

クマの出没に注意！



出没や被害があればご連絡を！

盛岡市 農政課 生産振興係
☎019-613-8457

クマはどんな生き物？

現在日本には北海道に生息しているヒグマと、本州に生息しているツキノワグマの2種類のクマがいます。

初回である今回は本州のツキノワグマについて、少し触れていきたいと思えます。

ツキノワグマはその名の通り、真つ黒な体の胸のあたりに三日月型の白斑があるのが特徴の中型のクマで、一見愛らしい見た目をしていますが、安易に近寄るのはもちろん危険です。体重は40kg程度から大きなもので100kgを超えます。雑食の生き物ですが、普段は植物性のものを多く食べています。聴覚や嗅覚は非常に優れています。目はあまり良くありません。木登りが得意で時速約60kmで走ることができ、鉄筋をへし折る腕力と、かつ猫のような柔軟性も持っています。（基本的に頭さえ入れれば出入りができるそうです。）

クマが積極的に人を襲うことは稀ですが、近距離での不意の遭遇や、子連れの母グマなどを刺激してしまうことで、身を守るために攻撃してくることがあります。（特に子連れの母グマは子グマを守るために攻撃的になる事があります。母強しというのは人間と同じです。）

出会わないために

これからの季節は屋外での活動が増え、クマに遭遇する確率も必然的に高まります。しかし、大抵の場合はクマから先に人間の気配を察知し、静かに離れていきます。そのため山菜採りや釣り、農作業時にはラジオなどの音の出るものを携帯し、クマに人間の存在を気付かせることで、遭遇のリスクを減らすことができます。（クマ鈴にも一定の効果があるようですが、立ち止まってしまったり音が鳴らず、クマがこちらに気付くのが遅れてしまうという

指摘もあります。さらに沢沿いや雨の日など、周囲の音が聞き取りにくい環境下ではお互いに発見が遅れ、遭遇の危険が高まります。()

万一出会ってしまった際の保険として、唐辛子成分入りのクマ撃退スプレーなどを携帯することも有効ですが、一番は出会わないことです。

どうしてクマは里に？

普段は山奥で人知れず暮らしている彼らですが、様々な理由で山を歩き回っているうちに、人里近くまで降りて来てしまうことがあります。

その際に外に放置されている飼料や生ゴミ、廃果を見つけたらどうするでしょうか？ さっと彼らにはそれが宝の山に見えるはず。山では苦労して手に入れていた食べ物、里には沢山あるということを一学習してしまおうと、案に食べ物を得るために何度もその場所に通うようになり、(より安全でより効率

的な手段があればそちらを選択する。()このように人間の方からクマを無意識に里に呼び寄せてしまっている例も多く見られます。

そしてクマは執着心が強く、一度居付いてしまおうとなかなか諦めてくれなくなり、更に被害はエスカレートし、最悪の場合は人身被害に繋がる恐れもあります。(クマの人馴れ)つまり、被害を防止するためにはクマを人里に寄せ付けないことが肝心だと言えます。(誘引物の撤去、追い払い、電気柵による防衛等)

どんな対策がある？

クマに対して「人間の土地には魅力がない」と思わせることが寄せ付けないカギです。

その為にまずは餌(誘引物)となるものを片付けましょう。それでも畑の作物などが狙われてしまう場合は、電気柵による防衛も有効です。更に、人間の領域と山との間に緩衝帯を整備することも防

除効果を高めます。対策の基は個々の自衛です。しかしこういった作業を個人で行うにはどうしても限界があります。そこで、鳥獣被害を地域全体の課題と捉え、地域ぐるみで対策を行うことで成果を出している事例も出てきます。もしそれらを行っていくにも関わらず生活圏でクマを見かけた、また被害があった場合は、すぐに盛岡市役所農政課までご連絡ください。

そこで誘引物の有無などを含めた現場の状況を調査し、初めて具体的な対応を検討できます。クマだけに限らず、野生動物もひとつの命です。

簡単に命を奪いたくはありません。駆除はあくまで最終手段です。

農政課 ☎019-6138457

いぼな

昔は里山の多くの家庭で犬を飼っていましたね。実はその犬たちが集落の中で犬社会を形成し、縄張り＝人間の領域

への侵入者＝野生動物を威嚇して追い払っていたことで、集落への侵入をある程度抑えていたと言われています。更に、農林業者や狩猟者などが頻繁に山に出入りすることで、人間と野生動物との間にしつかりと境界線が引かれていたそうです。しかし燃料革命による木材需要の落ち込みや、少子高齢化による里山の荒廃が進むと、次第に境界線は曖昧になっていきました。

このような理由以外にも、野生動物による被害が増えたことには様々な要因が絡み合っているようで、簡単に説明のできるものではありません。しかし、人間社会の変容による影響もその一つであることは間違いありません。

今再び自然界や、そこで生きる隣人たちに腰を据えて向き合わなければならない時代に突っただけではないでしょうか。

これからの自然環境との付き合い方について、皆様と考えていけたら嬉しいです。

編集後記

この発行物は盛岡市地域おこし協力隊野生鳥獣被害対策担当が不定期で発行する、盛岡市の各地で問題となっている野生鳥獣被害や、その対応策などを通じて、これからの彼らとの共生関係を模索していくマガジンです。

私もまだまだ勉強中の身ですが、その過程で見聞きし、考えたことをお伝えしたいと思いい作成しました。まず彼ら＝野生鳥獣についての理解を深めることが共存・共生の第一歩だと私は考えます。

それではこれからもお付き合いのほど、よろしくお願い致します。

さとやまけもの通信

※掲載する情報に関しては十分注意を払っておりますが、万が一誤った記載を見つけた場合は、ご連絡を頂けると幸いです。また、ご意見やご感想もお待ちしております。

盛岡市役所若園町分庁舎

農政課生産振興係内

さとやまけもの通信編集机

f00084648@city.morioka.iwate.jp

※記載内容はあくまで個人の意見です。